

第4次豊明市都市計画マスタープラン
策定委員会（第2回）議事録

2025年11月13日（木）
午後2時00分～午後4時15分
豊明市役所新館1階 会議室4・5

1. 第1回策定委員会の報告

2. 第2回策定作業部会の報告

3. 議事

(1)「新たな計画書の構成案および検討フロー」「第2回策定委員会の論点」について（資料 P.1）

事務局より資料（豊明市都市計画マスタープラン策定委員会資料）に基づき説明
意見無し

(2)【論点①】まちづくりの理念と目標について（資料 P.2）

事務局より資料（豊明市都市計画マスタープラン策定委員会資料）に基づき説明

●質疑

（松本委員）

まちづくりの理念にある「縮充（しゅくじゅう）」について、人口減少はやむを得ないとしても、税収減までやむを得ないとするのはいかなものか。市外へ流出している消費を呼び込むための大規模な商業施設の立地誘導や、環境負荷の少ない AI やソフトウェア開発などの産業誘致などを記載してはどうか。

（事務局）

市としても財政縮小をやむを得ないと考えているわけではなく、「縮充（しゅくじゅう）」について、全国的な傾向に当てはめた内容を記載している。まずは市民の暮らしの質を高めることがまちづくりの方向性として重要と考えているが、市外からの誘客を諦めているわけではなく、頂いた意見は第3章以降の分野別方針への記載を検討したい。

（小田桐委員）

目標③の安全・安心について、災害だけでなく、食の安全、食料自給率や治安の視点もあるとよい。

目標④の緑づくりに関連して、花き市場など「花」を活かしたまちづくりを盛り込んでどうか。

(事務局)

食の安全を都市計画マスタープランに直接落とし込むのは難しいが、治安については加味した記載を検討する。また、食料自給率に関連して農地については優良農地の保全を行っていく旨を分野別方針には記載予定である。

花については、「とよあけ花マルシェ」など花き市場と市が連携した取り組みもあるため、当該内容は分野別方針に記載していく予定である。

(川島委員)

補足として、豊明市の最上位計画である総合計画を策定中である。当該計画は都市計画マスタープランと重複する内容に加えて、その他のソフト施策についても記載している。先日、総合計画審議会を実施し、計画書の大枠が固まってきたため、ご意見に関連する箇所については次回委員会でお示しする。

(天谷委員)

2025 年の最新の国土交通白書では DX に重点が置かれているため、本資料の記載内容と齟齬が無いか確認してほしい。

目標①について、「徒歩や公共交通」に加え、「自転車」も重要なキーワードである。国・県・市町村において自転車ネットワーク構想の施策を展開し、自転車通行帯の整備が進んでいるため、自転車についても明記していただきたい。

(事務局)

最新の国土交通白書を確認するが、あくまでも参考資料のため、当該部分をどのような形で計画書に記載するかは要検討である。

自転車については、策定作業部会でも議論があった。委員のご意見を踏まえ、追記する方向で検討したいと考えるが、委員の皆様のご意見をお伺いしたい。

(各委員)

異議なし

(向口委員長)

ウォーカブルなまちづくりにおいて、徒歩と自転車はセットで考えるべきであり、脱炭素の観点からも重要である。自転車道の整備には予算も伴うが、方向性として位置づけることは良いと考える。

(酒井委員)

自転車だけでなく、電動キックボードなどの新たなモビリティも普及しつつあるため、それらも含んだ検討が必要ではないか。

(向口委員長)

新しい公共交通システムという意味で、含めを持たせて検討していただきたい。

(村上委員)

目標②の「市民が生き生きと働ける場」という表現について、働き手が交流するだけでなく、市民、在勤者、来街者が交流することで活力が生まれるイメージにするとうよい。また、目標①～④が個別に実現されるのではなく、重なり合って相乗効果

を生み出すような記載としてほしい。

(事務局)

ご意見を踏まえて、表現を検討する。

(向口委員長)

関係人口も含めて豊かに暮らせるという意味合いかと思う。「豊明市の地域資源」という部分に「多様な」という言葉を加え、歴史的なものから身近な公園まで含まれることを強調してはどうか。

(城戸委員)

市内の高校や大学には、毎日数千人の若者が市外から通学しているが、多くが前後駅から直帰している現状がある。若者が楽しい時間を過ごせる場所があれば、将来の居住選択にもつながる。目標②の交流について、多世代交流や、外国人比率の高さを踏まえた多文化交流の視点を入れるなど、もう少し踏み込んだ記載があってもよい。

(事務局)

前後駅については社会実験等を通して居心地の良い空間づくりを検討している。

「様々な交流」という表現について、追記する形で検討する。

(川島委員)

「様々な交流」という表現については、第6次総合計画でも同様の趣旨が具体的に記載されているため、その内容も踏まえた表現に修正いただきたい。

(小田桐委員)

「Well-being (ウェルビーイング)」など、一般的な認知度が低い言葉には注釈をつけるか、分かりやすい言葉を選んだ方がよい。

(向口委員長)

使用する言葉は、なるべく誰もがわかりやすい言葉を使用した方がよい。

(原田委員)

「縮充」という言葉に強い違和感がある。これまでも豊明市は公共施設の再編などで縮充に取り組んできたが、これからのまちづくりで、あえて「縮む」という字が入る言葉を掲げる必要があるのか。ネガティブな印象を受ける。

(事務局)

「拡充」は主に第3次都市計画マスタープランの計画期間で実施してきた、定住促進のための「寺池」や「間米南部」の土地区画整理事業による市街地拡大をイメージして用いており、「縮充」は、人口減少下でも豊かさを維持し充実させるという意味で用いている。「拡充から縮絨へ」という言葉は先ほどからご意見をいただいていることも踏まえ、例えば「充実」など誰もがわかりやすく、かつポジティブな表現にするよう再検討したいと考えるが、委員の皆様のご意見をお伺いしたい。

(各委員)

異議なし

(事務局)

事務局から委員の皆様へお伺いしたい。市外からの誘客というご意見もあったが、大型の商業施設の立地誘導はまちづくりの方向性としてどうお考えになるか。

(松本委員)

先ほどの発言は例示であり、大型商業施設に限った話ではない。ただ、買い物は市外に行っている現状もあり、将来の高齢化の進行状況によっては買い物難民が増えることも考えられる。やはり豊明市内においてワンストップで生活でき、まちの中でお金が循環する状態が理想だと思う。

(向口委員長)

広く捉えて、大規模施設だけでなく、若者が魅力に感じるカフェや小規模な店舗などが立地できるような環境づくりも、まちづくりの視点として重要である。

(中野委員)

多くの若い人が前後駅を利用していることを考えると、コンパクトシティ推進の観点からも前後駅前の再生は必須ではないか。

地元商店としては、大型商業施設の誘致には慎重な意見もある。生活利便性（目標①）と質の高い緑づくり（目標④）のバランスの中で、必要な施設が立地できるよう検討してほしい。

(事務局)

来年開催予定の地域別ワークショップでは市民にこういった意向があるか、ご意見を頂きたいと考えている。

(向口委員長)

市街化調整区域への施設立地を許容、推進するかは、なかなか難しい判断だと思うのですが、市役所の担当としてはどうお考えになるか。「商業」というゾーニングがあってもよいのではないか。

(事務局)

土地利用については、現在お示ししている将来都市構造図のゾーンの考え方が基本となる。

(小田桐委員)

私自身、豊明市の魅力を説明するキャッチフレーズとして「ちょうどいいまち」を良く使用する。こうした魅力を活かした内容としてほしい。

(向口委員長)

外から見るとわかりづらいものなので、実感できるものがあるとよい。

(岡委員)

私の子供は「豊明には何もない」と言うが、子育て世代にとっては保育園や公共施設が近く快適でありカラットも良い施設だと思う。何もない良さと、何かある良さの両方を活かしたまちづくりを進めていけるとよい。

(原田委員)

課題から目標を設定する際、子育て世代への言及が多いが、本市は高齢化率や障害者手帳所持者の比率も高い。子育て世代だけでなく、高齢者や障害者も含めた「多世代」にやさしいまちというニュアンスの表現にしていきたい。

(事務局)

前回委員会でも同様の意見をいただいていたため、例えば目標①では「子育て世代をはじめとする全ての市民にとって」という表現としたところであるが、「子育て世代をはじめとする」という表現を、「子育て世代をはじめとする多世代の」といった表現に修正し、全ての人を含むことが伝わるようにする。これに対し、委員の皆様のご意見をお伺いしたい。

(各委員)

異議なし

(3)【論点②】将来都市構造について(資料 P.3)

事務局より資料（豊明市都市計画マスタープラン策定委員会資料）に基づき説明

●質疑

(向口委員長)

「防災・医療ゾーン」と「健康医療福祉拠点」は重複しているように見えるが、分けて設定する必要があるか。

(事務局)

拠点は上位計画（総合計画）で定められており、ゾーンは土地利用の観点で地区計画の内容を基に設定しているため、このような表記となっている。

(向口委員長)

「くらしと交通の拠点」は良い名称だが、「都市拠点」との名称のバランスや序列が気にかかる。都市拠点の方にも具体的なイメージが湧く名称を検討してはどうか。どちらも「くらしと交通の拠点」とし、補足で序列が分かるようにすることも考えられる。

(小田桐委員)

「くらしと交通の拠点」という名称は目指す方向性として良いが、現状維持にとどまるのであれば誤解を生む可能性がある。

(事務局)

豊明駅周辺は立地適正化計画で都市機能誘導区域に設定しており、商業等の誘導を図るエリアである。名称については、序列や役割が分かるよう再整理・検討する。

(4)【論点③】都市づくり・緑づくりの基本方針について

・都市づくりの基本方針(資料 P.4)

・緑づくりの基本方針(資料 P.5)

・緑の配置方針(資料 P.6)

事務局より資料(豊明市都市計画マスタープラン策定委員会資料)に基づき説明

●質疑

(向口委員長)

論点①の理念と目標で修正となった内容について、この基本方針でも関連する箇所は事務局で確認し、修正いただきたい。

(小田桐委員)

緑の配置方針について、皆瀬川周辺や坂畑公園などは拠点に入らないのか。前後駅に近く、ウォーカブルの観点からも魅力的な場所であり、位置づけを検討してほしい。

(事務局)

今回は市が管轄しており、特に重要な箇所を「拠点」として位置づけた。その他の緑については規模や役割に応じた取組を検討し、第3章へ記載する予定である。

(永田委員)

「緑の保全」とあるが、具体的に何をするのか。現在、「緑の保全」はできていないと考える。「緑の保全」とは単に放置するということではなく、外来種の駆除や剪定など、質の管理をしていかないと荒れてしまう。これには多額の費用がかかるが、実現可能な計画にしてほしい。

(事務局)

公園等の維持管理費が増大している課題は認識している。単に守るだけでなく、緑の質の向上や選別も含め、第3章以降で具体的な施策を検討していく。

(向口委員長)

緑の質を変えていくには専門的な知識が必要である。ランドスケープの専門家などを交えて検討する必要がある。

(村上委員)

豊明市には桶狭間古戦場や沓掛城址、寺社仏閣などの歴史資源がある。緑の配置方針と歴史資源を一体的に取り入れてはどうか。

(向口委員長)

歴史資源がどこに何があるか、改めて調査・再発見することも重要である。目立つものだけでなく、地域にある資源を活用する視点を盛り込んでほしい。

(事務局)

緑の拠点はお示ししたものとさせていただくが、歴史・文化資源の活用については、第3章の分野別方針や、地域別構想(ワークショップ等)の中で意見を収集し、反映していきたい。

4. その他

- ・地域別ワークショップ(とよあけまちづくりミーティング)の開催予定について
- ・第3回策定委員会の開催予定日時について
日時:令和8年3月18日(水) 10時
場所:豊明市役所 新館1階会議室4・5
上記開催日時とする。

5. 閉会

出席委員 酒井 克俊、中野 敏宏、永田 晶彦、原田 一也、向口 武志、松本 信之、小田桐 翔、青柳 克彦(丸山浩司代理)、湯浅 健司(埴夏樹代理)、天谷 重治、川島 康孝、岡 裕香、後藤 泰之、村上 明隆、菅原 大輔、城戸 孝之、吉田 淳

欠席委員 下里 正義、伊藤 正弘、尾関 謙治、新沼 英明

事務局 経済建設部長、都市計画課長、都市計画課長補佐、
都市計画課まちづくり推進担当係長、都市計画課職員2名
(株)国際開発コンサルタンツ 名古屋支店3名